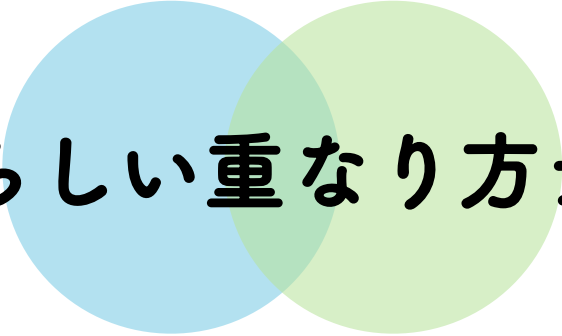




久留米らしい重なり方デザイン

# AU-CASE

project

AU-formal 実行委員会

## 背景

### ●久留米の地域福祉は、人間性の回復である。

人口減少や少子高齢化、時代が移り変わる中で、困りごとを抱える人（とされている人）が増え、課題や属性に沿った「支援」だけではキャパオーバーの状況であり、そもそもの「支援」の在り方や認識を変える必要がある。

久留米らしい支え合いを目指し、私たちが3年かけて見出してきた「課題より可能性」「知識より意識」「解決より関係性」というテーマは、「専門性がなくても関わることができる地域福祉」を意味し、地域共生社会に向けた旗印のひとつである。

【1年目】 コロナ禍において、人々の繋ぎ目を繋ぎ直す「地域福祉ロマン」→

【2年目】 制度の対象者の領域と分断を越える「地域福祉Neo」→

【3年目】 地域と福祉が混ざりあう一歩目「Au-Formal実行委員会」という流れが生まれました。

その中で、私たちは「当事者はじまりの視点」から、何が起きても助け合える地域になるには、地域住民の関わりしるを増やすこと。誰もが「地域福祉の一員である」という考えを共有し、互いが想像力をもって歩み寄り、伝えていくこと。専門性と当事者性が重なり合える仕組みや互いの強みを活かしながら進める支援体制の構築が重要であるとする。

「久留米らしい重なり方デザイン事業」において、「人として」地域と関わり暮らし合える環境構築を実行していける方法を導き出し、久留米から全国へと新しい地域福祉を伝播させていきたい。



久留米らしい重なり方デザイン

FormalとInformalの重なり方を

道路2車線に見立てた支援体制

叶え合う支援



久留米らしい重なり方デザイン

FormalとInformal

重なり方

道路2車線に見立てた支援体制

# 叶え合う支援

4通り（ケース）

## 結論

### 2車線の考え方で支援体制を整える

地域

地域

地域(久留米)の中に  
存在する  
叶え合う2車線ロード

制度を活用する道路  
(フォーマルロード)

制度を活用しない道路  
(インフォーマルロード)

専門職と活動家と  
本人と家族が  
一緒に乗った車が走る





## 結論

formalとinformalを重ねる(2車線)

formal road  
informal road

今まで

それぞれの動き

叶え合う

2車線で動く

今まで、地域の中でフォーマル、インフォーマル道路がそれぞれに支援や活動を展開してきた動きを重ね合わせる。

## 結論

重ね合わせ方

### 課題解決(共通のゴール)

制度を活かす目的

2つの目的

地域が関われる目的

叶え合う道路

制度を活用する道路  
(フォーマルロード)

制度を活用しない道路  
(インフォーマルロード)

formalとinformalが【同じ課題解決】に向かって  
【願いを叶え合う2つの目的】を持ち動き合うことを  
共通認識することでお互いの存在を認め共に動いていく





## 結論

叶え合う支援の良さ

①

支援(道路)の幅が広がる  
制度を超えた対応ができる

②

formalでの対応により  
生活のベースを確保できる  
安心・安全が守られる

制度を活用する道路  
(フォーマルロード)

制度を活用しない道路  
(インフォーマルロード)

③

informalの対応により  
制限のない選択肢が増える  
フラットな関係性が生まれる

④

本人の意思に  
より近い支援体制となる





# 叶え合う支援

制度を活用したサービスは  
「課題を解決する」為に専門職の人達が支援しているものだと思っていたが  
制度を活用しながらいかに本人の願いを叶えていけるかと  
考えてくれている方々が多いことに気づいた。

当初(申請時)は専門職の人達が「課題を解決するアプローチ」を行い  
地域の人達が「願いを叶え合うアプローチ」を行うという  
重なり方を想定していたが、

実は両方を合わせることによって  
より本人の意思に添い、  
願いを叶えることにつながっていくんだと確信した。

2車線で走れる支援体制を整えていき

困っている人を支援し、課題を解決していこう！＝支援の在り方  
ではなく

今困っているから、みんなで叶え合っていこう！＝支援の在り方  
へと考え方を変えていく事で  
地域共生社会への道が開けていくもの考える。

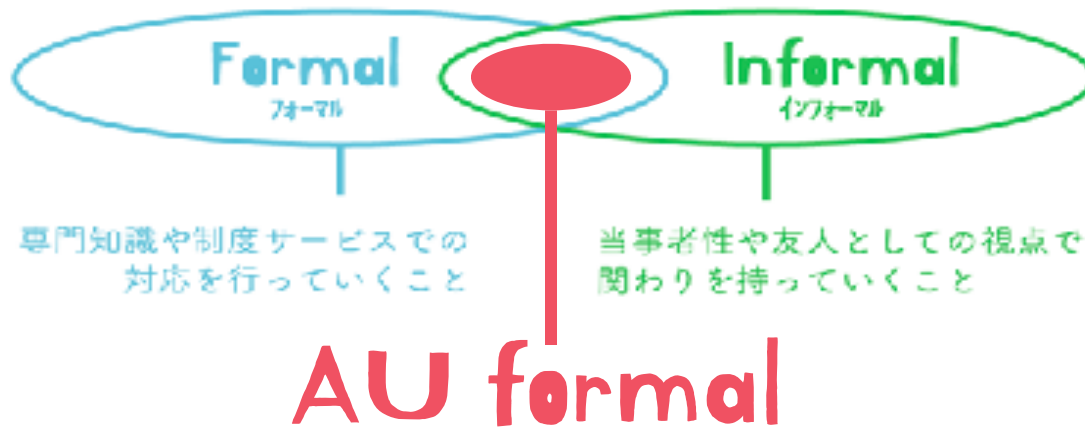
この結論にたどり着いた

# 今年度事業の報告



# 仮説前仮説

## 共通言語



役割や対応できる部分、支援の違いなどを  
理解・認め合い、それぞれの強みを活かしていくこと

## 言語の定義

### フォーマル

専門知識や制度サービスでの対応を行っていく**支援**のこと

### インフォーマル

当事者性や友人としての**関わり方**のこと

### アウフォーマル(造語)

フォーマルとインフォーマルが重なり合う部分  
お互いの強みを活かし合い**重なる方法**のこと

重なり合う部分を言語化し、共通言語として定着させ認識し合えることで  
新しい支援体制を見つけ出すことが出来るのではないか



# 仮説前仮説

## 運営体制



多種多様な活動軸を持つ10名により実行委員を組んだ。

福祉関係の人たちだけではなく、  
多角的な視点で活動している人達がチームになることで  
久留米らしい重なり方デザインを発見する効果となるのではないかと



# 仮説前仮説

プロジェクト名

叶え



「支援」という認識を  
「課題を解決すること」  
だけではなく  
「願いを叶える」という  
視点でも取り組めること

合う



「支援」する人・される人  
という体制ではなく  
共に「合う状態」であることを  
認識する大切さを示す

支援



「支援体制」を指す  
「し合う支援」と続くことにより  
する・されるの関係性ではない  
支援が生まれる

制度は何かしらの「課題」に対してのアプローチを行うが、  
支援が必要な「生活者の暮らし」には、きっと「願い」が含まれている。  
生活者達の「願いを叶え合う支援」を可能した時に見える  
久留米らしい重なり方が見えてくるのではないかな



## わたし達は当事業で

- ① formalとinformalが重なり合う状態を探し出し
- ②地域住民の多くが支援に関われる要素を見つけ
- ③現在の支援体制をもっと強化していく方法を導き出すことにより

久留米らしい重なり方デザインによる  
地域共生社会を創出できるのではないかと考える。



事業期間により全6ケースに関わった

内4ケースを元に

検証を行なった

実践に携わる事で検証していく





ケース1

成人式に行こう編

ケース2

ヨガに行こう！編

ケース3

昭和を歌おう！編

ケース4

友達化計画！編

①AU-CASE名

②本人情報

③実施内容  
(ロードケース)

④実施内容  
(Wフラッグ)

⑤気づいたこと

1ケースを5枚ずつのスライドで示す

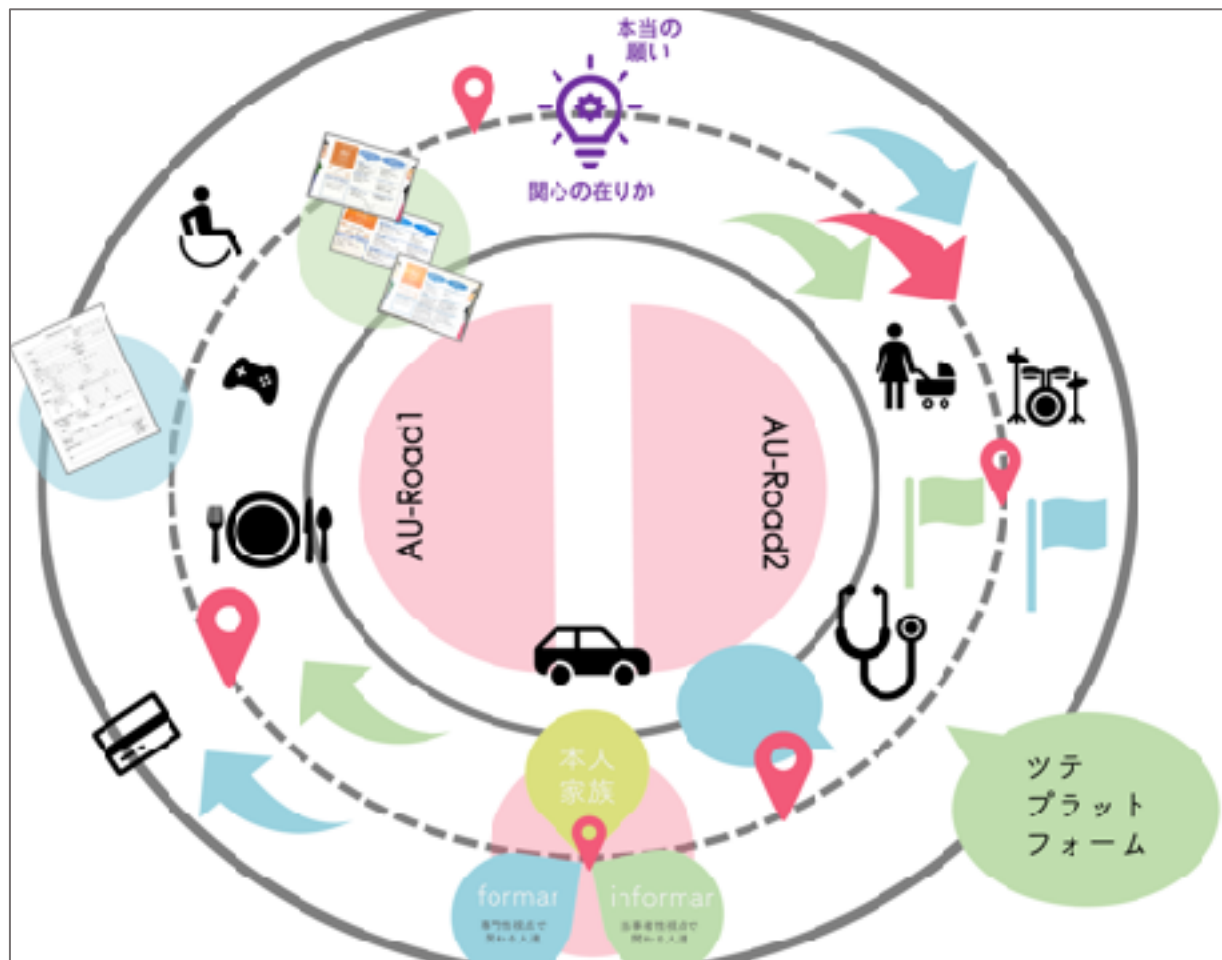




## 検証

## ロードケースの説明

実践したケースを円形の道路で示す



## アイコン

実施したこと



## 本人の意思

本人の本当の願い



## AU会議

混ざり合った会議/話し合い



## Wフラッグ

1車線ごとの目的

# K

# 1

## CASE

成人式に行こう！編

# くんの 叶え合うCASE



ヘルパー事業所



母子家庭当事者団体

## Kくんの叶え合う支援CASE



▶ 現在20歳／男性      ：      家族／母・弟(18歳)

中学時代は、成績も優秀で、野球部キャプテンをしたり、友達もたくさんいた。

3年生の時に、体調を崩し、精神科を受診。

投薬が始まるも授業中に身体の痛みやパニック状態を起こし精神科に1年半ほど入院。

退院後、自宅で暮らすも、長時間のフリーズ状態や、思うように動けず、「思考が分散する」と本人は表現していた。

サポート体制においては、母と、行政や病院・関係機関との折り合いがどうしても合わなくなる事が多く行き場・頼る場をなくしていた。

減薬をすすめ、断薬し、1年ほど。

現在も思うように動けない、やりたい事ができないが生活の環境や、何かしらのキツカケによる原因で、状態の変化が起こる。

スタバやTSUTAYA、カラオケ、漫画倉庫が大好き。

学生時代から音楽に興味あり、ドラムを好み、ワンオフ(歌手)のファン。ひとり暮らしをしたいと言っている。

# 検証

AUシート作成  
(事業所・民間団体・家族/計6枚)

思うように  
身体が動かない

自由に  
遊びに行きたい

平日泊まり

週末泊まり

監督との再会

親友との再会

行けた♡

次は  
ひとり暮らし編へ・・・

K君の  
成人式に行きたい編

本人  
家族

formar  
専門性視点で  
関わる人達

informer  
当事者性視点で  
関わる人達

遊び行く

通院

訪問

生活支援

成人式に行きたい



思うように  
身体が動かない

- ✓ 生活のサポート
- ✓ ショートステイを  
使った泊まり
- ✓ 一緒に事業所の農業
- ✓ 状態・状況共有

自由に  
遊びに行きたい

- ✓ 行きたい時に  
連絡してもらう
- ✓ 会いたい人と  
どうにかして連絡をとる
- ✓ みんなで手分けして  
お泊まり



## 本人の意思を掴みとり計画決定をするAU力が必要

- ✓K君の引き寄せる力が凄い
- ✓このメンバーだから生活をサポートできている
- ✓医療、福祉、制度だけではできない地域に足りない部分の気付きがあった（居場所、移動、日中活動）
- ✓身体面、精神面は常に一定ではなく日々変化する
- ✓環境を整えると安心感が増す
- ✓私達が思う以上に敏感だし、関わる人の様子をよく見てる
- ✓関わりが必要な場面と、時に待つ姿勢や、見守る姿勢が必要だと思った
- ✓本人が楽しい方がいいと言うように、楽しみの要素から入ると反発が生まれにくい
- ✓生活リズムは整えていけるが、一定のサポートは必要（日々の繰り返し）
- ✓そのために、食事、睡眠、関わる人（安心できる人）の要素が重要なのかも
- ✓一人暮らしの経験などをできる場所となった場合に、場所が中々見つからない。（現状としてない）空き家などをうまく活用し、体験できるような場所があれば。
- ✓ずっと一緒にいてこそ気づくことや見えてくることもある。

- ✓困っているのは、本人よりもお母さん
- ✓寝れるようにはなったけど、失禁してしまうようになったのは改善なのか
- ✓成人式で出席できた後に意識があがり友達に連絡できるまでになったけど生活リズムが崩れた
- ✓専門職の方々からのアドバイスにより本人がスムーズに動けるような付き添い方が出来てきた
- ✓専門家の分析力がすごい
- ✓ケース会議に呼ばれようになった
- ✓たまに、これ、私たちボランティアなんだけどなと思う
- ✓言葉で意思を伝えられない人の「本人の意思」って表情で決めていいのか
- ✓本人と楽しくごはんを食べてくれる人がもっといたら良かった
- ✓AUを生んだ専門職の人達が、この2事業所のこの人達だから出来たと感じる
- ✓6ヶ月間聞き続けて意思が見えたのでドラムを買ったけどしなかった。w
- ✓お母さんは、数年前より改善しているよと伝えると嬉しそうだった
- ✓本人や家族と関係性を築くのは対応者次第であり、対応者のスタンスが重要
- ✓ひとり暮らしを望んでいると思ってプランを立ててもらっているけど、本当に望んでいるのか分からない今。



検証

# Mさんの 叶え合うCASE



# CASE 2

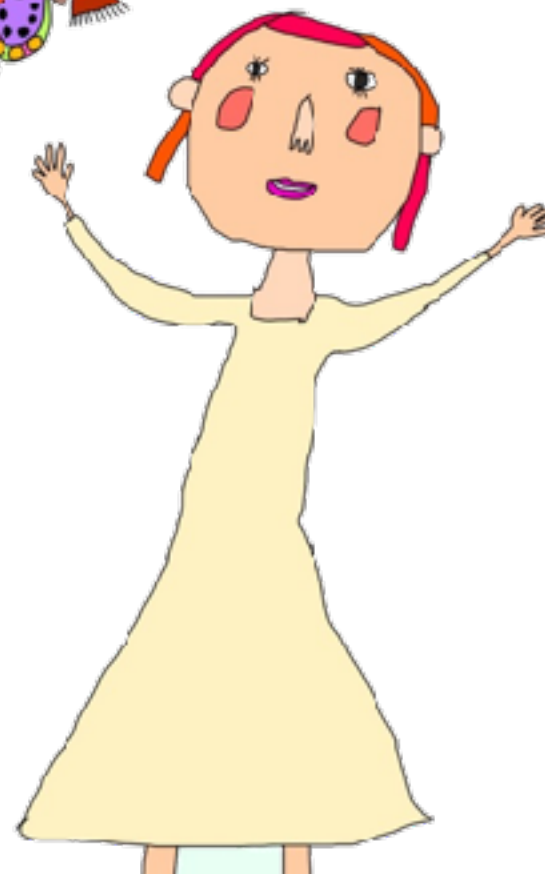
ヨガをしたい！編

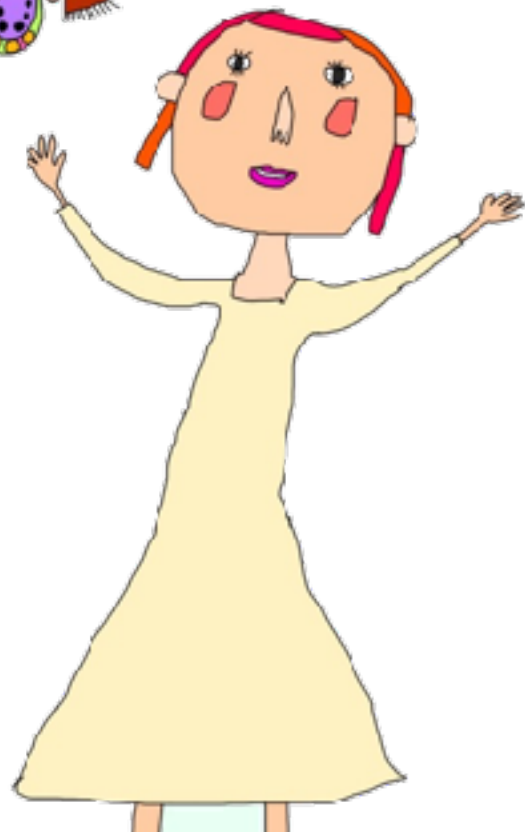


子ども子育て支援課



母子家庭当事者団体





□現在43歳／女性 ： 家族／長男(中2)・長女(小6)

母子家庭家族。現在、母は全身癌。完治は難しく  
今月を越す事ができるかと医師からの判断が出ている。  
息子は、学校には行っていない。

自身の体調や子育てへの不安のため、ココサポに相談。  
約1年程前、ココサポから、じじっかへの紹介をしてもらい出逢う。  
たまたま、じじっかの樋口由恵と高校の同級生だった。

仕事をしていたが、働けなくなり、家計が厳しくなり、  
食事也十分に取ることができず  
じじっかから、軽作業の仕事依頼をしたり、食事配達を行っていた。

自分が亡き後の子供達への為に生命保険にかけているため、  
生活保護受給も難しいと思い込み、制度とも繋がっていなかった。

そんな状況でも、体調が良い時はじじっかに来て、笑顔で過ごしたり  
弱音も吐かず、「私よりもっと大変な人達の為に」「私は大丈夫!」と  
言っていた。

3ヶ月ほど前から、軽作業の仕事も迷惑かけそうだからと辞めてしまう。



# 検証

スクールソーシャルワーカー  
ケアマネージャー  
訪問看護  
ココサポ  
児童相談  
民間団体（フードパントリー）  
民間団体B/AU formal  
家族（父の姉・母姉）  
※母危篤状態

この先長くない  
子どもをお願いしたい  
決める事を決めてほしい



体調の悪化

コロナ感染

仕事依頼



ご飯配達

不登校支援



元気になったら  
ヨガをしたい

人生に後悔  
してほしくない

1日でも長く  
生きられるように

カメラマン  
ヨガスクール経営者  
ヨガインストラクター  
メイクアップアーティスト  
小中高の同級生

医者  
訪問看護師

家族3人でヨガできた  
懐かしい同窓生も集まった  
家族写真も撮れた

次は3月16日！  
娘の小学校卒業式への参加！

Mさんの  
ヨガをしたい編

本人  
家族

formar

専門性視点で  
関わる人達

informer

当事者性視点で  
関わる人達



1日でも長く  
生きれるように

- ✓医療サポート
- ✓傷病手当
- ✓会議の実施
- ✓訪問看護



人生に  
後悔してほしくない

- ✓子ども達に命を伝える  
意思を聞く
- ✓元気になる食事を届ける
- ✓家族からの相談
- ✓ヨガ実施のための調整



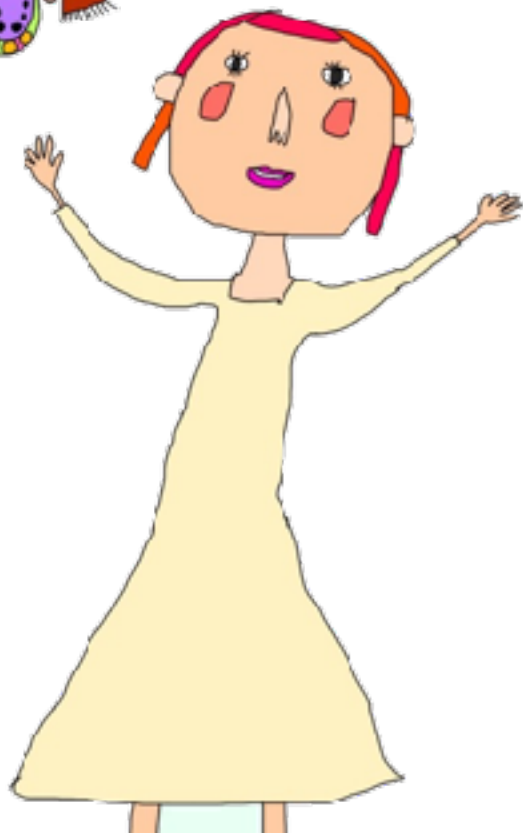
## 踏み込みながら意思決定をする大切さ

- ・ 亡くなる事を前提に話す事の難しさ
- ・ 本人の意思だけではない意思決定
- ・ 状況が日に日に変わっていく事で追いつかない
- ・ 困っているのが誰か分からない
- ・ やりたいと思うことか理解して貰えない
- ・ 本人軸でで考えると周りからは(本人の友達)反感を買う
- ・ 出来ない・やれない事が多くて何が出来るか見失う
- ・ 本人が亡くなって分かる血縁関係、計画が一気に変わる
- ・ 本人が希望する内容までに 1 年掛かる
- ・ 行政としての関わりか全てが「こうだろう」という  
予想で動かないといけない事
- ・ 関わる人が増える事で情報が錯乱する。
- ・ こうしようと決めても共有されないまま話が勝手に進む
- ・ 制度に関して知識が薄い
- ・ 里親登録を始めたが、実際は引き取れない ・ 優しさが混乱を招く

# Aさんの 叶え合うCASE

## CASE 3

昭和を歌おう！編



基幹支援センター



障がい者団体

□現在50歳／女性： 家族／父・弟

中程度認知症のある父と、軽度の知的障がいのある姉(Aさん)の2人暮らしを心配し、ひとりでは見きれないと、弟さんがAさんのグループホーム入所への相談を障がい者団体へ。Aさんは入所を拒否し、まずは父の生活支援として週1回のお買い物同行から始めた。

Aさんは、一般就労として早朝勤務もある職場で真面目に働いている。父は、毎日の娘への弁当作りを生きがいとして生活している。

趣味は、カラオケ、野球観戦、料理。  
毎週水曜日の夕方に行っている居場所づくりに参加するなど自分の楽しいと感じる場所、物事には積極的に参加している。野球の話になると、とても楽しそうに反応し、カラオケも80・90年代の曲を好み堂々と歌う。

自宅の部屋は雑誌やチラシが山積みの状態で生活している。

実施中に本人が警察に捕まってしまう事件が起きた。面会で「父を支えたい」という想いを持ちながらも繰り返した罪を後悔し出所後、再出発をする準備を行なっている。



# 検証

カラオケパーティ実施

事件

基幹支援  
ケアマネ  
弁護士

障がい者団体  
母子家庭当事者団体  
AU formal実行委員会

毎週通っている居場所で  
カラオケパーティをしてみよう！

本人の好きなこと探し

お父さんの  
サポート

Aさんの  
サポート

Aさんの  
昭和を歌おう編

・ケース会議  
・面会  
・手紙  
・出所後の計画  
・お父さんとの対話

出所後の 生活の確保

仕事・生活の場  
再犯防止・居場所など

・職場との連携  
・グループホームへの訪問  
・居場所との連携  
・サポート団体・機関との連携

次は  
出所後の生活と再犯防止

本人  
家族

formar

専門性視点で  
関わる人達

informer

当事者性視点で  
関わる人達

仕事・生活の場・居場所などの確保

- ✓ 住む場所の提供  
地域定着支援事業
- ✓ 職場の継続  
障害者就労・生活支援
- ✓ 支援の継続
- ✓ コーディネイト  
障害者基幹相談支援

- ✓ お父さんの居場所づくり
- ✓ 弟さんとの連携
- ✓ 本人の関心ごとを  
一緒に実行
- ✓ 地域の関わりを増やす





## 何があっても協力し合い次の手を考えることができる

- ・ Aさんのことが全く分っていなかった。1回目のシートには表面的なことしか書くことが出来ていなかった。
- ・ 家族から全面的に信頼して相談される関係になったのは、毎週のお父さんの買い物支援などを続けていたから。
- ・ 活動のバックに AU 応援団がいるような力強さを感じたのは大きかった。
- ・ 未知の分野の触法に関わることになったが、AU のなかに、触法支援経験があるメンバーがいて非常に心強かった! ほかに様々な分野の方が構成メンバーだという強みは凄いとおもった。
- ・ 会議室ではなく、カラオケ大会などで関係者が集まることは、本人の自然な姿を知ることができて良いし周りのつながりも深まり good と思う
- ・ インフォーマルの強みは、障害者サービスの枠など気にしなくて、活動できることだと思う。
- ・ フォーマルでは、計画できないイベント(成人式プロジェクト、ヨガレッスン、カラオケ大会、鍋会)が実施できた。  
本人の願いを叶えるだけではなく、イベントを通して関係者のつながり作りの成果はとても大きい。
- ・ 障がい者団体として、普段からフォーマルな機関と信頼関係を築いて活動してきたので個々のケースの相談もスムーズにいく部分もあったと思う。
- ・ 今まで課題を感じても、関わることが出来なかった分野(知的障害者の再犯防止)へも力を注ぐ足がかりができた。これからも、市民活動でどれだけのことができるかを実践していきたい。
- ・ 事件後、障害者基幹相談支援センターの職員の専門性に助けられた。  
お互いに一緒に取り組むことができてよかったと心から思っている。まだまだ、これからが本番だから。
- ・ 毎日かなりの時間や労力を費やすことになったが、委託事業の手当が出たのは、物理的にも精神的にも助かった。  
しかし、ケースが増えてくると時間の限界があると感じている。

# N さんの 叶え合うCASE



## CASE 4

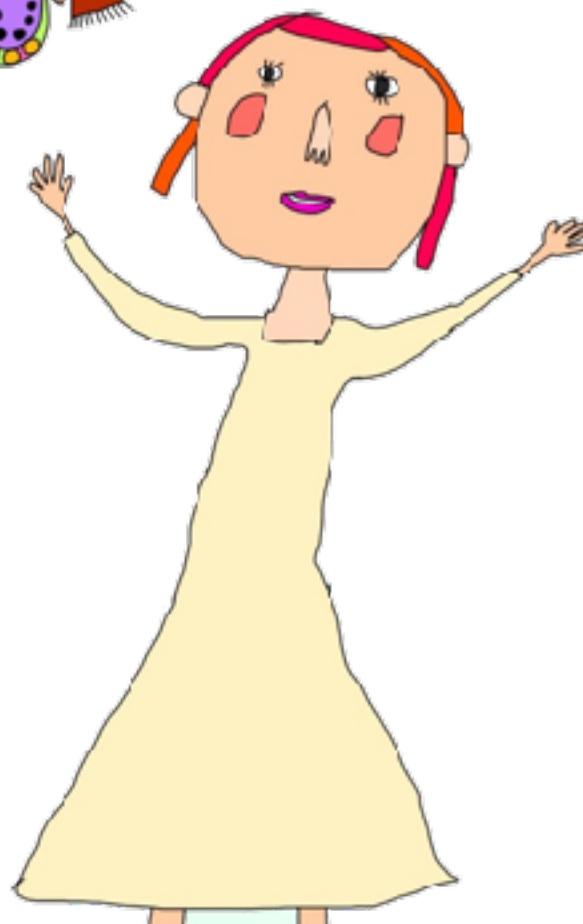
友達化計画！編



長寿支援課



AU- formal実行委員会



□現在37歳／女性：家族／父(80代?)・母(80代?)

寝たきりのお母さんへの家族内での介護のネグレクト状態で  
長寿支援課が支援に入っていた。

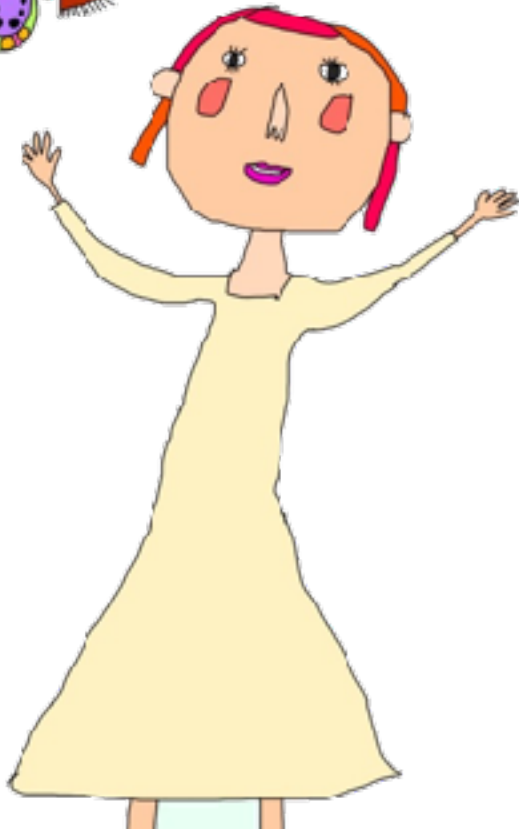
母のオムツが変えられていなかったり、お皿が洗われていなかったりと  
家の中が不衛生な状態。母の環境を考慮して施設入所への計画に、  
母本人も拒否し、Nさん(本人)も反対。父も高齢で体調不良もあり、  
このまま自宅で過ごしていくのは厳しい状態。

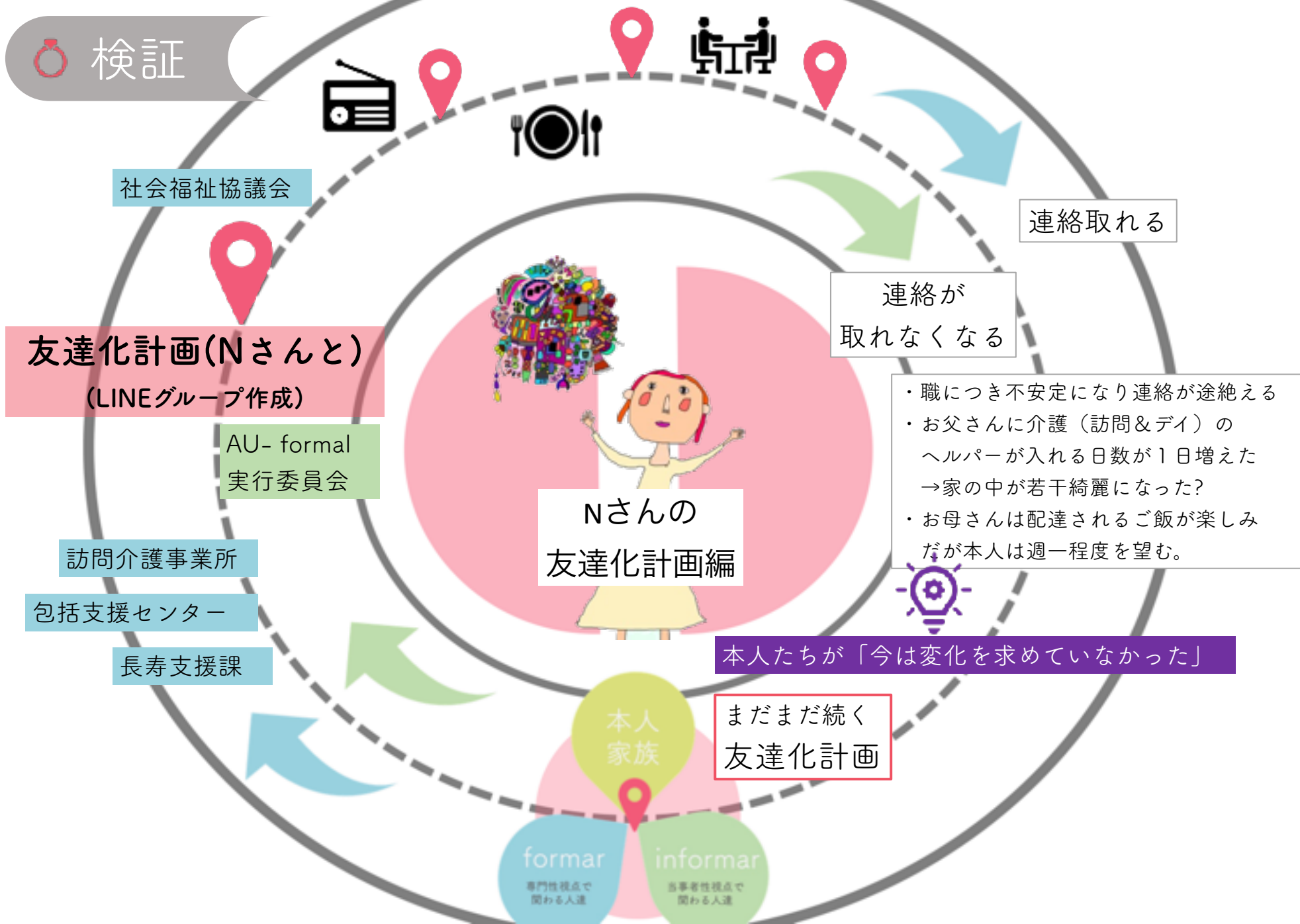
お母さんの支援として入ったが、Nさんからの言葉は母への  
影響力があると見て、Nさんへとアプローチ。

**社会の接点が少ない37歳の現役世代として友人のような立場で心を  
打ち明けていけるような人が存在することが  
母もNさん（家族全体）にとって、  
ステップアップになるのではないかと考えた。**

明るく社交的で、仕事は工場勤務を真面目にしているが、  
近所との関わりを嫌い職場は遠方へ通勤している。  
警戒心が強くネガティブ思考な一面がある。友達に裏切られた経験があり、  
縁を切ってしまう状態。  
たったひとり、母へのヘルパーとして訪問している方には心を開いていた。

Nさんがヘルパーに一度「ちゃんぽんを食べに行こう」と誘ったが、  
時間外のため行けず。友達になれるような人との関わりを行っていく  
「友達化計画」を行うことに。

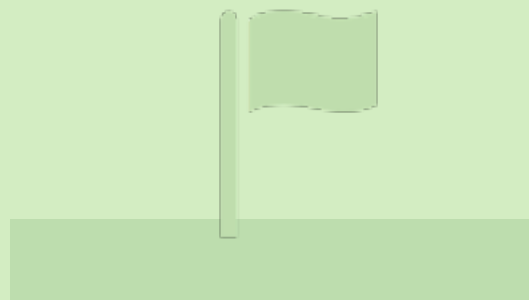






✓父・母への  
生活サポート

✓介護保険等



✓食事配達

✓たまの連絡・会いに行く

本人が「今は変化を求めていなかった」

(課題設定が本人不在だった?)

formal側とinformal側のグループができたことで状態や詳細を共有することができた。

スタートの時点で叶えていく必要性を探したが、

本人自信は特に叶える必要はなく、今は部分的な解決が必要なだけだった。





願いを見つけ出すことを目的とするのではなく  
まずはゆっくり関係性を築いていく為の  
知恵を出し合うことが必要

- ・困っている人が誰なのか分からない
- ・想像以上に踏み込めない
- ・入るタイミングが分からない
- ・動かしたい物事の前の段階ただったところが進まない
- ・仲良くなるのが難しい
- ・LINEなどで繋がりが持てない
- ・仲良くなるタイミングがその場のみのアプローチになる



## 検証

4ケースで気づいたこと

### ●本人が手伝ってほしいことを言語化できると地域の人に関わりやすい

地域の人達に関わるには、現状に見える課題に関わってもらうのではなく、本人が望んで喜んでもらえる事ではないと、関われなくなる。

### ●今関わっている人達にも仲間がいると、動き方が変わる

「関わること」は色々な判断が必要で、それを相談できたり認めたり応援してくれたり共感できたり知恵を出し合えるような仲間がいると支援が継続しやすい。

### ●専門職の人でも地域活動家の人達も「人」として仲良くなればちゃんと話し合える

組織やルールがある人としての関わりや、ポリシーや方針を持つ活動家としての関わりで会議等を行うと話がまとまりづらい点を感じてきたが、会議は人として話し合えとお互いに役割分担を認め合い、実践が効果的に動き出す。

### ●何があっても諦めずに、最善の方法を考えて実行する

連絡が取れない状況になっても、事件が起こったとしても、本人が亡くなったとしてもまだまだ関われる方法はあるし、一緒に生きていく方法があることを忘れない。諦めない。





# 結果

叶え合う支援の2つのフェーズ

フェーズ1(どこに行きたいかを考える)

AU

たずさわる

踏み込む

関心の在りか

現在地



関係性づくり



AUシート



本人の意思



フェーズ2(行き方を考え向かう)

Wフラッグ

ツテたどり

たぐり寄せ

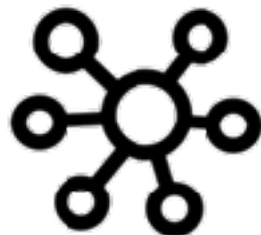
叶え合う

目的地決定

2つの目的



伝手プラットフォーム



アクション





## 結果

2つのフェーズの説明



---

### AU とは

本人・家族・フォーマル人・インフォーマル人が  
「叶え合う支援」を理解した上で、あう。

「AU会議」という「叶え合う」ための  
関係者が集まり共有・計画等を話し合っていく



## 結果

2つのフェーズの説明



---

### たずさわる とは

関わる。触れてみる。向き合ってみる。  
感じてみる。想像してみる。愛を持って携わる。

困り感を抱えた人に携わることは  
傷つけるかもしれない、知識がないから・・・など少し不安になることがある。  
みんなで共有しながら、まずは携わってみること



# 結果

## 2つのフェーズの説明



## 踏み込むとは

本人や家族が求める願いに向けてふみこむ  
(拒絶と承認の間、くすぐったい部分へ)

本人と身近な関係者(家族・友人・ご近所の方など)に  
AUシートを記載してもらい、本人の意思を導き出す



## 結果

2つのフェーズの説明



---

### 関心のありかとは

本人の願い・興味・関心のありかを  
重なりあいながら探り言語化していく

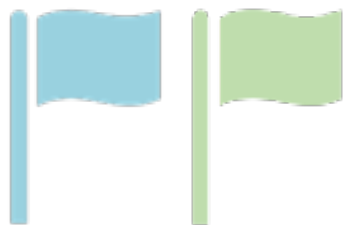
本人ありきの支援を。

本人と決め、本人と進めていくこと。その為に本人と話し合える本音を。



## 結果

2つのフェーズの説明



---

### Wフラッグとは

本人の意思に基づいた  
Formalな「制度を活かす目的」と  
informalな「地域が関われる目的」という  
2つの目的をお互いに共通認識として理解し合う

最終ゴールは一緒であることを前提に2車線として共に進んでいくために  
お互いの強みを活かした目的を持つことでアウフオーマルな関係性を深めていく



## 結果

2つのフェーズの説明



---

### ツテたどり とは

いつでも、必ず、つながっていく  
伝手プラットフォームが存在する地域

「関心の在りか」により、本人に必要な力は、  
きっと地域の人達も多く持っているもの。  
人から人へと伝手をたどり、地域全体の力で願いを叶える





## 結果

2つのフェーズの説明



---

## たぐり寄せ とは

伝手をたぐり寄せ  
実行していく

本人の状態、環境、タイミングにより  
起こしていくアクション  
フォーマルもインフォーマルも本人も家族も友人も  
みんなで輪になり実行していく



## 結果

2つのフェーズの説明



---

## 叶え合う とは

叶え合っていく  
(実行していく)

伝手をたどり繋がった人達と本人と共に願いを叶えていく  
スキルを分け合い、価値を共有し、  
お互いに喜び合える状態をつくっていく

## 結果

### 2つのフェーズの説明



叶え合う支援には2つのフェーズが存在し

本人の意思「関心の在りか」を見つけ出す為にアウフォーが発揮されるフェーズと「叶え合う」ことを目指し、実際に様々な視点からのアプローチを行うフェーズがあること。

各々のケースにより、流れや形は違えど

アウフォーの共通認識としての2つのフェーズを持つ



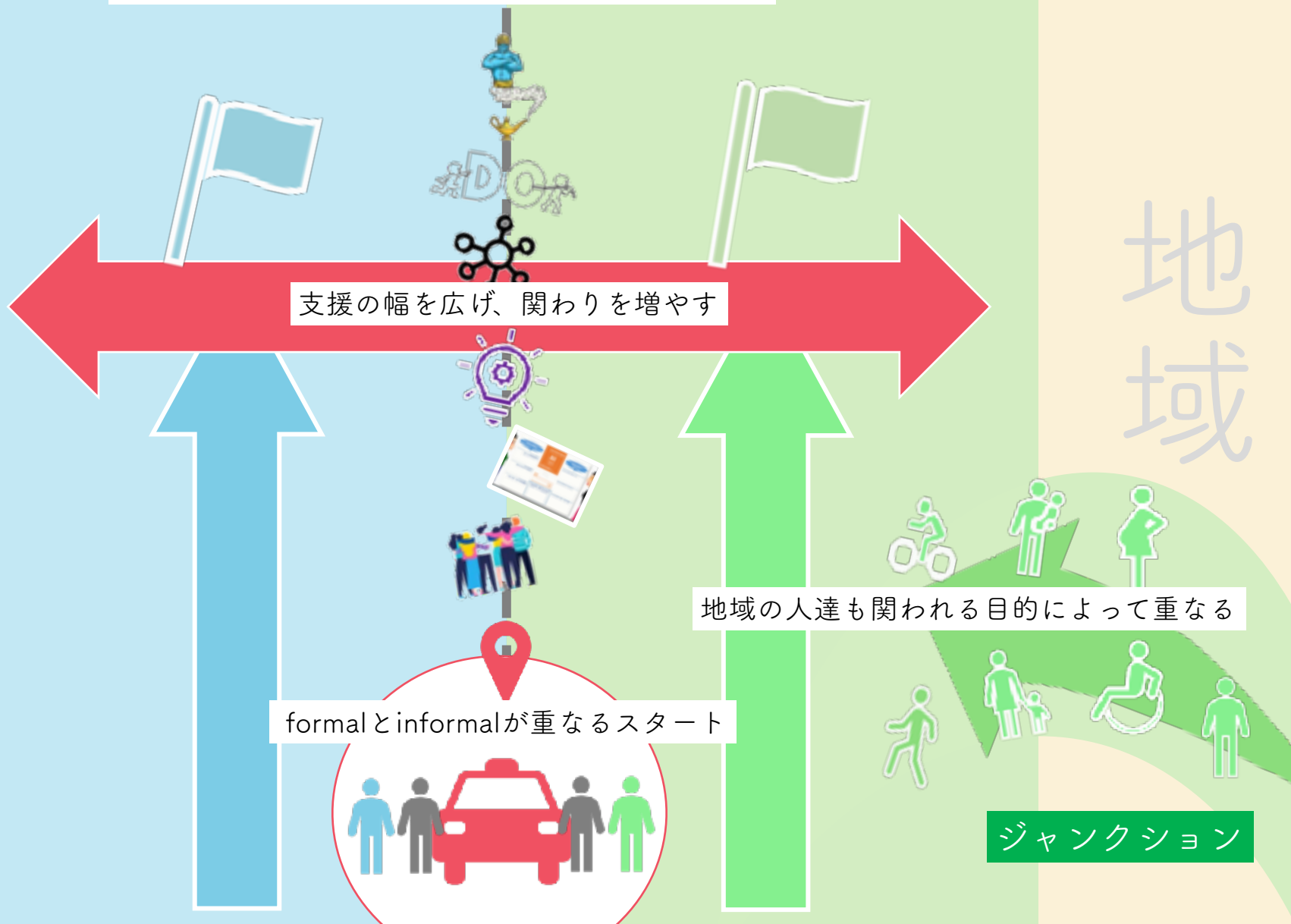
## 結果

### 仮説

- ① formalとinformalが重なり合う状態を探し出し
- ②地域住民の多くが支援に関われる要素を見つけ
- ③現在の支援体制をもっと強化していく方法を導き出すこと

地域

地域





## 結果

地域

地域

### 久留米らしい重なり方デザイン

Formalとinformalの重なり方を道路2車線に見立てた支援体制

## 叶え合う支援

制度を活用する道路  
(フォーマルロード)

制度を活用しない道路  
(インフォーマルロード)





## 課題

叶え合う支援を推進していくための今後の課題

### AU formalの周知

formal、informalの方々への周知

### 運営方法

インフォーマルの活動資金や  
今後の展開方法

### 個人情報

formal・informalどちら側からのAUの提案により  
始まるであろうAU-CASEを  
ツテプラットフォームに共有する際の  
個人情報の取り扱い等

### デザイン化

久留米らしい重なり方デザインとしての  
今後の計画



今後

## マネジメントしていく 民間団体の立ち上げ

多様な公的機関・福祉事業所・民間団体・地域企業・医療機関・教育機関等が協働し、民間組織として、「地域福祉会社」を立ち上げる。

様々な視点で活動を進める組織の  
プラットフォームをつくり  
更に地域共生社会に向けて、  
重なりやすく、進みやすい、  
強力なオリジナルの支援体制を構築していく

